

ホタルよ、
福島に
ふたたび

阿部 宣男
Nobuo Abe

ホタルの輝きは希望の光

ホタルよ、
福島に
ふたたび
輝きは希望の光

阿部 宣男
Nobuo Abe



9784757221123



1920095015002

ISBN978-4-7572-2112-3

C0095 ¥1500E

定価：本体1500円 + 税

アスペクト

乙第 23号証

アスペクト

アスペクト

居室の池での水中生活を終え、いよいよ上陸する時期になりました。

私は勤務を終えて帰宅した後、夜の8時過ぎに再び『温室植物園』に来るようにしました。陸に上がった幼虫が土の中にもぐってサナギになるには、やわらかい土質でなければなりません。彼らが移動するのは夜です。そこで毎晩2時間かけて、ホースで水を撒いた。また、室内にあった霧を発生させる装置で霧も吹きかけました。

その年、羽化したのは8000匹。初年度の数が450匹ですから、18倍弱に増えたわけです。無事に育ったホタルさんは冷房室だけではなく、温室でも自由に舞っていました。そして、第2回『ホタルふれあいの夕べ』も盛況に終わったのです。

『温室植物園』の来園者は、初めて『ふれあいの夕べ』が行われた年から、通常時でも格段に増えていました。それまではどんなに気候のいい時期でもせいぜい1日10〜20人程度だったのが、200人、300人になっていたのです。ホタルさんの効果も大きかったと思います。

と同時に、気をよくした役所の一部の人間が、ある計画を水面下で画策し始めていました。もちろん、私は知る由もありません。

とんでもない計画の全貌を聞くことになったのは、1992年の1月でした。

私の耳に『温室植物園』が6月いっぱい閉鎖される」との知らせが届いたのです。

そして、私は区内にある『赤塚植物園』に異動になると……。

だんだん裏事情がわかってきました。

東京都から出向していた当時の課長が、植物園内につくった生態系空間の規模を広げて、『マレーシアの熱帯を再現したい』と言い出したのです。密かに準備を進め、建設会社とも話をつけていた。後に報道された記事によると、どうやら建設会社と癒着関係にあったらしいですね。

『マレーシア館』を新設するには、ホタルも阿部も邪魔だった。そこで植物園を閉鎖して、私を異動させようと考えたわけです。

この決定に、真つ先に異議を唱えたのは区民でした。

「植物園はできてからまだ11年しか経っていない。それをなぜ閉めてしまうのか」

「ホタルたちはどうなる。マレーシア館なんかより、ホタルのほうが大事じゃないか」

しかし、役所は区民の声を聞き入れません。すでに予算が下り、工事に着手する日程も決まっている。決定は覆せないと頑なに言い張るだけです。

そこで「7月に行われる予定だった夜間公開だけでもやってほしい」と、区民の方々は